新聞記事における話し言葉的接続詞「でも」の使用について

鐘　紫儀

キーワード:新聞記事　接続詞　文体　モダリティ

要旨

本研究では、新聞記事における話し言葉的な接続詞「でも」の使用について考察した。接続詞の使い分けは文体とのかかわりがあるが、書き言葉的な新聞記事において話し言葉的な接続詞「でも」の使用が見られる。そこで、新聞データベースを利用して、「でも」の具体例を収集したうえで、「でも」の使用について考察した。その結果、新聞記事における「でも」は、対話形式の記事、個人的な見解を表出しやすい投稿・評論や社会・文化・スポーツなどのような読者の共感を得られやすい話題に出現する傾向があり、また接続詞「でも」の前後の文において、聞き手めあてのモダリティが出現しやすく、読者向けの姿勢を見せることがわかった。新聞記事における「でも」の使用によって、書き手の感情が表出しやすくなり、読者は書き手の目の前にいるような臨場感が得られ、筆者と読者との交流が実現できる。

1. はじめに

接続詞の文体的特徴(田中(1984))や、接続詞と文体の相関性(馬場(2018))の研究によると、話し言葉的な接続詞は話し言葉に、書き言葉的な接続詞は書き言葉に使うのが一般的である。しかし、書き言葉的な新聞社説において話し言葉的な接続詞「でも」が出現する現象の指摘(塩澤(2003))がある。新聞記事の文体混用の現象について、文末表現の混用から記事の文体混用に関する研究がある(熊谷(2001))が、話し言葉的な接続詞の新聞記事での使用を対象にした研究はまだ少ない。このため、新聞記事における話し言葉的な接続詞の使用について具体的に検討する必要がある。本研究では、新聞記事における話し言葉的な接続詞の具体例を収集した上で、新聞記事に話し言葉的な接続詞が出現する原因を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

接続詞と文体の相関性について、馬場(2018)は、接続詞の文体差と、『BCCWJ図書館サブコーパスの文体情報』の「硬度」「くだけ度」の平均値との関わりの可能性があ

ることを指摘した。柏野(2016)は、日本語の作文技術に関する文献や書き言葉と話し言葉の相互関係に関する文献から、書き言葉と話し言葉という文体差がある語や表現を抽出した。抽出の結果、「でも」はそれらの文献で、「話し言葉的」として取り上げられていた件数が一番多くあった。このように「でも」は話し言葉的な接続詞であるが、塩澤(2003)は2002年1月1日から1月31日までの朝日新聞の社説において、「でも」が見られることを指摘した。しかし、塩澤(2003)は、「でも」が出現する部分を検討してはいるが、「でも」が出現する原因については詳しく説明していない。このように、接続詞には文体との相関があることが分かる。しかし、新聞社説は書き言葉であるにもかかわらず、話し言葉的な接続詞「でも」の使用が見られる。

文における逆接の接続詞の使用や選択に影響を及ぼす要素について、北野(1989)は逆接系の接続詞「pところがq」の使用条件を明らかにするために、「話者が命題を構成するための情報をどのようにして手に入れたか」という「話者関与性」の概念を提出した。また「話者関与性」の高低を後続文「q」における文末のモダリティ形式や心理、感情、判断などのような主観的な態度を表す述語などの要素を検討した。その結果、「pところがq」の使用はqの「話者関与性」の高低に関係があることを明らかにした。甲田(1994)は、日本語逆接型の接続詞とその文末ムードとの共起制限を考察し、接続詞の使い分けが情報の根拠の違いに関係があることを明らかにした。赤羽根(1996)は、逆接の接続詞の意味用法を接続詞の前後文のムードの制約の観点から分析し、異なる接続詞によって、文末ムードの制約も違うことを明らかにした。このように、逆接の接続詞の前後の文のモダリティ表現が逆接の接続詞の使用に関係があることが分かる。

さらに、モダリティについて、日本語記述文法研究会(2003)によると、文は、伝える事柄的な内容を担う命題と述べ方を担うモダリティによって構成されている。このように、文の情報は事柄の内容のみではなく、その内容に対する話し手(書き手)の態度も含まれる。このため、モダリティは書き手の表現意図との関わりがあると考えられる。

3. 研究対象と研究方法

3－1. 研究対象

先行研究から分かるように、話し言葉的な接続詞「でも」は書き言葉的な新聞社説に出現することが見られる。そこで、新聞記事全体での「でも」の使用を見るために、

『読売新聞』のオンライン記事検索データベース「ヨミダス歴史館」を利用して、2019年1月1日の記事で「でも」を検索した結果、接続詞として使われる「でも」は10例である。「でも」は社説での出現だけではなく、社説以外の記事において「でも」の出現が見られる。新聞記事における「でも」の使用を詳しく見るために、本研究は全ての記事を対象として、「でも」の用例を収集する。

3－2. 研究方法

先行研究によると、接続詞の使用は文体との関わりがあり、また、接続詞とその前後文のモダリティ表現との共起制限があることがわかる。さらに、モダリティの分析によって、書き手の「でも」を使う意図が見られると考えられるため、本研究では、新聞記事における「でも」が出現する記事の種類と内容、「でも」の前後文に出現するモダリティ表現、という二つの点から、「でも」の使用について分析する。

モダリティ表現の考察に際し、日本語記述文法研究会(2003)の分類を参考にする。モダリティに関する研究において、モダリティの形式や分類に対する検討は様々である。これらの研究の基本的な考え方は同じであっても、モダリティの形式や分類に関する範囲の違いがある。モダリティを広い範囲で統一的に考察するために、本研究では、モダリティを広い範囲で記述し、包括的枠組みである『日本語記述文法研究会(2003)』を参考資料とする。日本語記述文法研究会(2003)では、モダリティ表現を以下のように分類する。

ア. 表現類型のモダリティ(文の伝達的な表し分けを表す)

・叙述のモダリティ(〈φ〉)・疑問のモダリティ(か？等)・意志のモダリティ(しよう、つもりだ、等)・勧誘のモダリティ(しよう、しないか、等)・行為要求のモダリティ(しろ、しなさい、てください、等)・感嘆のモダリティ(なんて、とは、等)

イ. 評価のモダリティと認識のモダリティ(事態のとらえ方を表す)

・評価のモダリティ(べきだ、てもいい、なくてもいい、てはいけない、等)・認識のモダリティ(だろう、かもしれない、はずだ、ようだ、らしい、等)

ウ. 説明のモダリティ(文と先行文脈の関係づけを表す)

・説明のモダリティ(のだ、わけだ、等)

エ. 伝達のモダリティ(聞き手に対する伝え方を表す)

・丁寧さのモダリティ(普通体と丁寧体)・伝達態度のモダリティ(よ、さ、ね、等)

本研究では、以上の分類に従って、「でも」の前後文のモダリティ表現について分析する。

4. 新聞データベースを用いた調査と収集した記事の分類

4－1. 調査対象

新聞記事における話し言葉的接続詞「でも」の使用原因を明らかにするために、本研究の調査対象は『読売新聞』と『朝日新聞』とした。『読売新聞』と『朝日新聞』は日本の全国紙であり、全国どこにいても読むことができる。販売部数は、全国紙ではそれぞれ業界1位と2位[1]である。このように、日本人の生活に関係が深い『読売新聞』と『朝日新聞』を本研究では調査対象として分析を行う。

4－2. 調査方法

本研究では、『読売新聞』と『朝日新聞』の2019年1月1日から2019年2月28日までの全国版の新聞記事を対象として、『読売新聞』と『朝日新聞』のオンライン記事検索データベース「ヨミダス歴史館」と「聞蔵Ⅱビジュアルfor Libraries」を利用し、新聞記事における接続詞として使われる「でも」の実例を収集した。

ただし、単純に「でも」を検索すると、用例数が非常に多くなる。例えば、『読売新聞』2019年1月1日から2019年1月31日までの記事を「でも」で検索すると、得られた用例は1,832例である。その中で、接続詞として使われる「でも」だけではなく、「読んでも」のような接続助詞「でも（ても）」、「きれいでも」のような形容動詞連用形「で」+「も」などのように、接続詞の「でも」ではない例が確認された。

このように、単純に「でも」をキーワードとして検索すると、得られた用例が多く、必要な例の抽出が難しくなる。このため、接続詞として使われる「でも」の用例を効率よく得るために、以下のように、条件をつけて検索を行った。

まず、二つの文の間に出現する「でも」の検索について、普通に文と文の間で使用される接続詞は「……。$\boxed{\text{接続詞}}$……。」のような形式であるため、文の間の「でも」を抽出するために「。でも」の形式で検索する。以下のaで示す。

また、段落最初に出現する「でも」の検索について、段落最初に使用される接続詞は「　$\boxed{\text{接続詞}}$、……。」という形式である。しかし、記事検索データベースで、言葉の最初に、スペースを入れて検索することができない。そこで、「でも」の前に出現する語を排除するため、「～でも」という形式の前に出現しやすいものを予想し、それらを除

外する検索条件を設定した。以下のbで示す。

a.「。でも」(二つの文の中の「でも」)
b.「でも、」NOT「。でも、」「れでも」「んでも」「けでも」「つでも」「こでも」「までも」「てでも」「にでも」「ところでも」「なかでも」「中でも」「場合でも」「人でも」「内でも」「しでも」(段落最初の「でも」)

以上のような検索条件で検索すると、得られた記事数は『読売新聞』は693、『朝日新聞』は995であった。しかし、以上の条件で接続詞以外の「でも」はすべて排除できていないため、さらに、それらの記事から、接続詞として使われる「でも」を含む記事を目視で抽出した。このような手順で得られた、接続詞として使われる「でも」を含まれる記事数は、『読売新聞』は312、『朝日新聞』の記事数は645である。

4－3. 記事の分類

収集した記事を見ると、接続詞「でも」は新聞記事において、記事の会話文、読者の投稿、社説など様々な記事に出現することが確認できる。新聞記事の会話文は主に被取材者の発言で、誰かが話したものであり、読者の投稿、社説などのような記事は誰かが書いたものである。

このようなことを考慮して、「でも」が本来は話すときに使われたものであるのか、書くときに使われたものであるのかを基準として、「でも」が出現する記事を大きく2つに分けた。本来的に話すときに使った「でも」の分類に該当するのは、記事の会話文、インタビュー記事などのように当事者の発言に出現する「でも」である。一方、本来的に書くときに使った「でも」の分類に該当するのが、読者の投稿、社説などのように、最初から文字の形式で書かれた記事に出現する「でも」である。最後に、この二分類のそれぞれに分類される記事に出現するマーカーによって、さらに詳しく分類した。このマーカーとは、記事の内容に出現する記号、言葉など、そこから記事の種類を判断できる部分である。例えば、会話文であれば、記事に「」という引用の記号がある。記事のタイトルに「評」という語があれば、この記事は評論と判断できる。このように、記事において明示されるマーカーによって、その二分類に該当する記事をさらに下位分類した。具体的な分類を表1に示す。

表1　収集した記事の分類

分類	具体的判断の基準	分類
話すときに使った「でも」	引用マーカーの「」の使用が見られるものである。次の例は、「でも」を含む文が「」で囲まれている。下線等の記号は筆者による。 (1)（略）「もしかしたら、屋根のない寒いところに一人でいるんじゃないかと心配だった。でも、大友さんにはハイムという居場所があった。それが、せめてもの救いだったんじゃないか」と話した。（略） 「惨事１年、１１人を悼む　運営会社代表、生前の姿「鮮明に」そしあるハイム火災」朝日新聞2019.2.1	①発言（引用）
	記事の主語はインタビュイーであり、記事の最後に「（聞き手・取材者の名前）」という表示がある。 (2) 解く　「わからない」聞くのが役目　作家・タレント 室井佑月 （略）この国で起きている大変なことは政治的な案件で、ワイドショーではなかなか扱わない。でも、たまに取り上げるときに、見ている人の興味をかき立てるために私は出ているの。（略）（聞き手・井上秀樹） 「世相、情報番組コメンテーターに聞く　新年特集第３部・エンタメ」朝日新聞2019.1.1	②発言（一人称形式）
	記事において「語る」、「話す」などのような記事の内容は話すものということを表明する言葉があるもの。 (3)（略）囲碁の張栩（ちょうう）名人（38）と将棋の佐藤天彦（あまひこ）名人（30）が展望を語った。 （略）彼らに続く人もたくさんいて、僕の１０代のころに比べてレベルが高い。でも、まだまだだな、と思うところもあります。（略）（構成・大出公二） 「今年の棋界、２名人語る　囲碁・張栩、将棋・佐藤天彦」朝日新聞2019.1.10	③発言（語り）

分類	具体的判断の基準	分類
話すときに使った「でも」	対話形式で、実在人物の名前の表示がある。 (4)(フロントランナー)ミゲル・マッケルビーさん「健康や生活への満足度が未来の価値観に」 ――ＷｅＷｏｒｋの人気の一つは、オフィスの概念を打ち破るデザインやインテリアですね。 (略)会社にはよく、入り口に受付があり、その後ろにロゴがありますね。でも、家の中にそんなものはありません。(略) 「(フロントランナー)ＷｅＷｏｒｋ共同創業者、ミゲル・マッケルビーさん仕事場を共有し、新しい発想を」朝日新聞2019.1.12	④対談
話すときに使ったか、書くときに使ったか、判然としない	記事関係者の表示があるが、記事の最後に「(聞き手・記者の署名)」という聞き手の表示がない。このため、この分類の記事の内容は被取材者の話か、あるいは書いたものなのか、判断できない。 (5) その人なりの味　しみる　番組を愛する漫画家・宮川サトシさん (略)取材の踏み込みが足りないと感じる回も正直あります。でも、繰り返し見るうちに「カメラがまわっている時に、いい感じの言葉が出ないのもその人の味なのかな」と思える。(略) 「迫る、十色の情熱　２０周年の「情熱大陸」ロケに密着　新年特集第３部・エンタメ」朝日新聞2019.1.1	⑤談話の可能性
書くときに使った「でも」	この分類の記事は、(6)のように本来実在しない「のの」と「先生」という人物を設定し、日常的な言葉の対話形式でまとめたものである。また記事の最後に取材協力の関係者が示されている。 (6) のの　名前の方(ほう)が、それぞれの台風がすぐ思(おも)い出(だ)せそう。 先生　そうね。でも、思い出したくない人もいるかも。ともあれ、災害はないほうがいいよね。(略) (取材協力＝気象庁予報官の石原洋さん、構成＝嘉幡久敬) 「(ののちゃんのＤＯ科学)台風の名前はどう決めるの？」朝日新聞2019.1.26	⑥疑似談話

分類	具体的判断の基準	分類
書くときに使った「でも」	一問一答の形式で、読者の問題に対して、専門家が答えるという形式にまとめられたもの。 (7)●相談者　男性　２０代(略) ○回答者　社会学者・上野千鶴子　感情の帳尻が合わぬ限り続く追及 (略)はい、「けじめをつけたはずなのに」「見苦しい」です。でも、その母を見たくないから、母に出て行ってほしい、は本末転倒。(略) 「(悩みのるつぼ)父の浮気発覚後の母が見苦しい」朝日新聞2019.2.23	⑦問答記事
	タイトルに「(声)」「(投書)」などの表示がある。 (8) 大学生　天崎滉介(岡山県　２０) (略)僕も投稿者と同じく就活を控え、働くこと、大人になることについて考える機会が増えました。でも考えてもわからない。僕はまだまだ子供です。(略) 「(声)大人って何？僕もわからない」朝日新聞2019.1.7	⑧読者投稿
	記事のタイトルあるいは記事の最後に「寄稿」という表示がある。 (9)(略)私が玩具会社で新卒採用担当だったころは２２日連続で出勤したことがあります。でも、学生の前では疲れた顔を見せられません。(略) 「就活ＯＮ！　常見陽平の内定ロード]学生や会社の未来つくる(寄稿)」読売新聞2019.01.22	⑨寄稿
	記事の最後に評論家の署名がある、あるいは記事のタイトルに「評」という表示がある。 (10)(略)「バナナはちょっとつまらない」ともあって、苦笑いする。私にはこの感覚はなかった。でも、言われてみるとなるほどなあと、感心する。(略)評・野矢茂樹(立正大学教授・哲学) 「(書評)『わるい食べもの』　千早茜〈著〉」朝日新聞2019.2.23	⑩評論

分類	具体的判断の基準	分類
書くときに使った「でも」	以上のようなマーカーがない記事である。 (11)（略）陛下と同じ年齢の京都市の女性（８５）は、在位中最後の姿を見ようと初めて足を運んだ。会場の端だったため姿はほぼ見えず、耳が不自由なため声も聞こえにくかった。でも、手話通訳の動きから言葉を読み取った。（略） 「「最後に陛下の姿を」全国から　皇居で一般参賀」朝日新聞2019.1.3	⑪普通記事

以上のように、収集した記事は11種類に分類できる。この中で分類①②③④は主に被取材者の発言で、誰かが話したものであるため、話し言葉的表現「でも」が出現しても違和感がないと考えられる。それに対して、読者の投稿、社説のような記事は、本来的に、誰かが書いたものであるため、普通は書き言葉的表現を使うべきであろう。このような記事で、話し言葉的表現「でも」が使われるのはなぜだろうか。この原因について、次節以降、明らかにしていきたい。

本研究は分類⑥⑦⑧⑨⑩⑪のような書くときに使った話し言葉的な「でも」がある記事に注目し、「でも」の使用の原因を明らかにする。なお、分類⑤に出現する「でも」は話し言葉か書き言葉かについて判断できないため、これも分析対象に含めることとした。

5. 『読売新聞』と『朝日新聞』における「でも」の使用

5－1. 「でも」が出現する記事

「でも」が出現する記事について、話し言葉的な接続詞「でも」が出現した記事数を分類ごとに表2に示す。記事の内容の重複があった場合は、一つの記事として扱った。

表2　『読売新聞』と『朝日新聞』における「でも」が出現する記事数（例文数）

分類	『読売新聞』		『朝日新聞』	
	数	比率	数	比率
⑤談話の可能性	8(9)	7.1%（7.2%）	21(23)	6.9%（6.3%）
⑥疑似談話	2(2)	1.8%（1.6%）	22(33)	7.2%（9%）
⑦問答記事	17(18)	15%（14.4%）	5(9)	1.6%（2.5%）
⑧読者投稿	24(26)	21.2%（20.8%）	79(88)	25.9%（24%）
⑨寄稿	3(3)	2.7%（2.4%）	2(4)	0.7%（1.1%）
⑩評論	7(9)	6.2%（7.2%）	22(24)	7.2%（6.5%）

分類	『読売新聞』		『朝日新聞』	
	数	比率	数	比率
⑪普通記事	52(58)	46%（46.4%）	154(186)	50.4%（50.7%）
合計	113(125)	100%（100%）	305(367)	100%（100%）

表2を見ると、両新聞の共通点について、両新聞とも疑似対話と読者投稿に話し言葉的な接続詞「でも」の出現が多い。また、普通記事に出現する場合は、社会面、生活面、スポーツ面、文化・文芸面、教育面などの面に出現しやすい。なお、「でも」を検索した際、『読売新聞』のデータには一部データベースで未公開の記事がある。それらの記事は主に、スポーツ面に掲載された記事や寄稿である。未公開の記事は計39記事である。

以上の記事における話し言葉的な接続詞「でも」の出現する原因について、記事の形式を考えると、疑似談話の記事と問答型の記事における「でも」の使用は、会話の雰囲気を作るためである。対話形式の記事に話し言葉的表現を使うと、記事に設定された人物が、話しているという感じが生まれる。さらに、問答型の記事は、相談者の悩みに対する解決策を提案するものであるため、相談者をその解決策に納得させるためにやわらかい表現を使うことによって、相談者に回答者の親しさを感じさせることができる。

記事の内容を考えると、読者投稿、寄稿、評論などの記事に「でも」が出現する文の内容は主に(12)のように、書き手自分の見解や体験を述べるときに出現する。普通記事には、「でも」が社会面、生活面、スポーツ面などのような読者の共感を得られやすい話題が含まれる記事に出現する。これらの記事において、「でも」が(13)(14)のように個人の意見、体験などを述べるときに出現する傾向がある。

(12) そして、またサボった。でも、よく考えてみると、教室は自分たちが使ってよごしている。

「(声)若い世代　責にん持ってそうじをすると」朝日新聞2019.1.18

(13) 本来、座布団は投げてはいけない。でも、投げずにはいられない。

「挑戦１４度　玉鷲、白鵬から星　大相撲初場所・１２日目」朝日新聞2019.1.25

(14)　いつもは、足湯に浸かるくらいならどこかで風呂に入ろう、とスルーしてきた

私。でもその時はなんとなく足を入れた。

「(まち歩きのススメ)湯めぐり編 「弟子屈の足湯」 四湯四様、あぁ…極楽」朝日新聞2019.2.22

このように、「でも」が出現する文の内容は主に自分の体験や意見を述べるため、話し言葉的な「でも」の使用によって、書き手の感情を表出しやすくなり、読者はより直接にその感情を感じられるという効果があると考えられる。

5－2.「でも」の前後に出現するモダリティ表現

ここでは、「でも」の前後文におけるモダリティ表現について検討する。『読売新聞』と『朝日新聞』における出現するモダリティ要素を表3に示す。【】に示した語は、その語だけではなく、活用形と異なる形態、例えば【かもしれない】は「かもしれません」「かも」のように、その語に関するすべての形式が含まれる。

表3 『読売新聞』と『朝日新聞』における出現するモダリティ要素

モダリティ要素	『読売新聞』			『朝日新聞』		
	先行文	後続文	出現頻度が多い表現	先行文	後続文	出現頻度が多い表現
丁寧さ	49	45	ます	89	90	ます、ました
認識	15	13	【かもしれない】	27	37	【かもしれない】
説明	7	12	【のだ】	20	35	【のだ】
伝達態度	6	13	ね	22	15	よ
疑問	3	5	か	6	23	か
評価	2	2	【必要がある】	7	3	【必要がある】
意志	1	0	【つもりだ】	1	2	【しよう】
行為要求	0	1	ください	0	1	ください
勧誘	0	2	【しよう】	0	0	
合計	83	93		172	206	

全体的に見ると、両新聞ともモダリティ要素は先行文より後続文に出現する比率が高い。両記事における「でも」の前後文に出現するモダリティ要素は勧誘のモダリティ以外は、同じである。聞き手めあてのモダリティ(伝達・表現類型)は事態めあてのモダリティ(評価・認識)より出現しやすい傾向がある。また、個別の要素を見ると、説明のモダリティと疑問のモダリティは「でも」の後続文に出現しやすい傾向がある。このような聞き手向けのモダリティを使うことによって、読者への語りかけの効果があると考えられる。

さらに、日本語記述文法研究会(2003:183)は「「見える」「聞く」「思う」などの知覚や思考を表す動詞は、スル形にとって、認識のモダリティの形式に似た働きをすることがある」と述べる。本研究が収集した用例から見ると、思考動詞、知覚動詞「思う」「考える」「見える」などの表現が含まれる用例が多く、またそれらの表現の形式も様々である。両新聞における思考動詞、知覚動詞の出現を表4にまとめた。

表4　『読売新聞』と『朝日新聞』における思考動詞・知覚動詞

『読売新聞』				『朝日新聞』			
先行文		後続文		先行文		後続文	
表現	数	表現	数	表現	数	表現	数
【思う】	8	【思う】	12	【思う】	27	【思う】	30
【感じる】	6	【感じる】	5	【わかる】	7	【わかる】	8
【考える】	1	【わかる】	3	【考える】	5	【感じる】	8
【わかる】	1	【見える】	1	【感じる】	3	【考える】	7
						【見える】	2
						【願う】	2
						【聞く】	2

表4を見ると、「でも」の先行文と後続文における思考動詞と知覚動詞の出現は一定数見られる。特に、【思う】に関する形式の出現が一番多く、これらの表現の半分以上を占める。これらの表現は、「でも」の先行文より、後続文に出現する傾向があると見られる。

5－3. まとめ

以上、『読売新聞』と『朝日新聞』における話し言葉的な接続詞「でも」が出現する記事の種類と「でも」の前後文におけるモダリティ表現について分析した。

新聞記事における話し言葉的な接続詞「でも」は、疑似対話のような会話形式でまとめられた記事、また投稿、評論などのような個人的な見解、経験の内容が含まれる記事に出現する傾向がある。このように、「でも」は個人的な視点から出来事を述べる内容に出現しやすい。

「でも」の前後文におけるモダリティについて、「でも」の前後の文には、丁寧さのモダリティ、認識のモダリティの出現が少なく、全体的に見ると、聞き手めあてのモダリティ表現の出現が多い。また、話し言葉的な接続詞「でも」の前後文には、思考動詞・

知覚動詞の出現が少なくない。そこで、「でも」の使用は前文と後文の論理関係だけを表すのではなく、書き手の認識、読者向けの姿勢を読み取ることができる。

文体の混用について、メイナード(1991)は日常会話、小説会話、随筆におけるダ体とデスマス体の混用について考察し、文末形式の混用は前景化・後景化をもたらす効果があることを明らかにした。この観点から考えると、書き言葉的な新聞記事に、話し言葉的な「でも」を使うことにより、書き手は読者に語りかける内容、または自分の思考、感情を表す内容に焦点を当てることになる。そうすると、読者は書き手の思考・感情の内容に注目しやすくなり、同じ場に存在しない書き手と読者とのコミュニケーションが可能になるだろう。

以上、新聞記事における「でも」の使用について分析した。新聞記事において、会話形式の記事、また誰かが考えること、経験したことの内容に話し言葉的な「でも」が出現しやすくなり、また聞き手向けの表現、書き手の認識を表す表現がある場合に、「でも」が出現しやすい。

6. おわりに

以上、本研究では、新聞記事における話し言葉的な接続詞「でも」の使用を分析した。

新聞記事のような書き言葉の文章で話し言葉的な接続詞が使用されることについては、これまでにも指摘した研究があるが、その使用の具体的な原因について、説明が行われてこなかった。本研究では、新聞記事における話し言葉的な接続詞「でも」の使用に着目し、「でも」が出現する記事の種類と「でも」の前後文のモダリティ表現から分析を行った。その結果、「でも」は対話形式の記事、また、個人的な意見、経験の内容が含まれる記事に出現する傾向があることが分かった。「でも」の前後文には、聞き手めあてのモダリティ、認識のモダリティに出現する傾向が見られた。新聞記事における「でも」の使用によって、書き手の感情が表出しやすくなり、読者はより直接にその感情を感じられるという臨場感を与える効果があり、書き手と読者との交流が可能になると考えられる。

本稿では新聞記事における話し言葉的な接続詞「でも」について検討したが、「でも」以外の話し言葉的な接続詞はどのような記事に出現しやすいか、どのような要素と共起しやすいか、「でも」と同じような傾向があるのか、これらの問題について、さらに検討する必要があると考える。

注

1.「新聞（全国紙）の勢力図・発行部数ランキング」

https://www.digital-dokusho.jp/newspaper/national-newspaper/（参照日：2019年7月17日）

参考文献

赤羽根義章（1996）「逆接の接続詞の意味用法：前件と後件のムードとの関わりから」『新しい国語教育の基層：長尾高明先生華甲記念論集』,長尾高明先生華甲記念論集刊行会,pp.41-56.

柏野和佳子（2016）「学術的文章作成時に留意すべき「書き言葉的」「話し言葉的」な語の分類」『計量国語学会第六十回大会予稿集』,計量国語学会pp.37-42.

北野浩章（1989）「「しかし」と「ところが」：日本語の逆接系の接続詞に関する一考察」『言語学研究』8,pp.39-52.

熊谷滋子（2001）「新聞投書にみる文体の効果：「ですます体」と「非ですます体」の混用を通して」『人文論集』52（1）,pp.273-286.

栗原優（2007）「新聞記事に見られる「書き言葉」と「話し言葉（口語）」の混同についての考察」『文化情報学』14（1）,pp.39-43.

甲田直美（1994）「情報把握からみた日本語の接続詞」『日本語学』13（10）,pp.97-107.

塩澤和子（2003）「逆接型シカシとダガの意味分析試論：朝日新聞「社説」を資料として」『文藝言語研究（言語篇）』43,pp.1-21.

田中章夫（1984）「4 接続詞の諸問題：その成立と機能」鈴木一彦・林巨樹（編）『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』,明治書院,pp.81-123.

日本語記述文法研究会（編）（2003）『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版.

馬場俊臣（2018）「接続詞の文体差の計量的分析の試み：『BCCWJ図書館サブコーパスの文体情報』を用いて」『北海道教育大学紀要6.人文科学・社会科学』69（1）,pp.1-14.

メイナード・K・泉子（1991）「文体の意味：ダ体とデスマス体の混用について」『月刊言語』20（2）, pp.75-80.

調査資料（データベース）

朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル for Libraries」（https://database.asahi.com/index.shtml）

読売新聞「ヨミダス歴史館」（https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/）

－東北大学大学院生－